

今後のがん検診のあり方についてご議論いただきたいこと

1 国の動向（厚生労働省「がん検診のあり方に関する検討会」）

(1) 胃がん検診

区分	現行	中間報告書(※)の提言
検診方法	・ 胃部エックス線検査（バリウム）	・ 胃部エックス線検査（バリウム）又は胃内視鏡検査（胃カメラ）
対象年齢	40 歳以上	50 歳以上 当分の間、40 歳代に胃部エックス線検査を実施しても差し支えない。
検診間隔	1 年に 1 回	2 年に 1 回 当分の間、胃部エックス線検査は、1 年に 1 回としても差し支えない。

(2) 乳がん検診

区分	現行	中間報告書(※)の提言
検診方法	・ マンモグラフィ検査及び視触診	・ 原則として、マンモグラフィ検査 ・ 視触診については、単独での推奨はしないが、実施する場合は、マンモグラフィと併用する。 ・ 超音波検査（エコー）については、引き続き検証する必要がある。
対象年齢	40 歳以上	40 歳以上
検診間隔	2 年に 1 回	2 年に 1 回

(※) 資料 2 - 2 「がん検診のあり方に関する検討会中間報告書」参照

2 検診方法変更に係る本市の課題

(1) 胃がん検診

- 検診実施機関における胃内視鏡検査の実施可能件数の把握
- 対象年齢及び検診間隔の考え方
- 胃内視鏡検査実施に当たっての検診精度（設備及び技術）の確保

(2) 乳がん検診

- 視触診の実施継続の可否
- 超音波検査が検診方法に追加された場合の対応

(3) 大腸がん検診

- 郵送による検便の提出の検討

3 今後のスケジュール

平成 27 年度中に、「がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針」が改正予定であることを踏まえ、本市においては、平成 29 年 4 月から胃内視鏡検査導入に向けて検討を行う。

実施時期	実施内容
平成 27 年 10 月	・ 精度管理連絡会議の開催（進め方の検討）
平成 27 年 11 月	・ 胃内視鏡検査の実施可能件数の調査について市医師会に事前協議
平成 27 年 11 月	・ 胃内視鏡検査の実施可能件数の調査実施 ・ 胃がん検診WGの開催（胃内視鏡検査、検便郵送の検討）
平成 28 年 2 月	・ 原対協の乳がん検診検討会の開催（乳がん検診方法検討）
平成 28 年 3 月	・ 精度管理連絡会議の開催（検討結果の報告）
平成 28 年 6 月	・ 平成 29 年度予算重点事業として胃内視鏡検査の実施を提案